

# 男性性の傷つきに敏感なジェンダー臨床論のために（その3） -ジェンダー違和感をもつ男性のエピソード分析をとおして-

For Gender-Sensitive Clinical Approach to Wounded Masculinity (3)

國友万裕（同志社大学）／中村 正（立命館大学）

Kazuhiro Kunitomo (Doshisha University) / Tadashi Nakamura (Ritsumeikan University)

Key words: 男性性、ジェンダー、被虐待体験  
masculinity, gender, vulnerability

## 問題意識と基本的課題の設定

ジェンダー社会における女性の被抑圧的地位に由来する被害はすでに社会に認知されているが、同じように男性に関わる諸困難についての認識はまだなされているとはいえない。そのため、男性が何らかのジェンダー由来の被害を訴えると、本人の意識や行動の特性に帰責されてしまい、社会的な位相において認識をすることが困難になり、ますます、当事者を追いつめることになる。問題の隠蔽・否認、自己責任化等という諸点において二次的加害の様相をジェンダー作用は男性にもたらす。とりわけ、女性が加害者である場合、男性本人が男性優位主義的意識をもつことも奏功し、女性の些細な言動に傷つき易いのだという解釈をされるケースもある。つまり、被害を認めてもらえないばかりか、女性の被害者性を看過し、大きな抑圧を無視する者として指弾されることもある。しかし、「男性・加害者／女性・被害者」と割り切れるほど、問題は単純ではない。むしろ、被虐待性を訴えることができないことが、男性の最大の不利益な部分と言える。男性問題のフェーズをきちんと取り出し、ジェンダー社会における臨床の課題の裾野を広げることになる事例分析を行う。

## 方法と分析：当事者研究的なナラティブとエピソードのポートフォリオ化と多様な男性性のライフコース

被虐待体験のある男性のライフストーリーの分析を行う。そこには男性ジェンダーに対する複雑な思いが絡み合っており、それを一つずつ紐解いて行くことで、多くの男性にも普遍的につながる、ジェンダー社会における男性性の病理を読み解きたいと思う。以下のように、ある男性の男性性ジェンダー違和感のエピソード記述にかかわるナラティブ構成をとおして分析を加えていく。

- ① 主流となっている男性性規範から外れた資質（スポーツやけんかができない。他の男子たちについていけない。自分は男子として三流であるという意識。学校に通うことが苦痛になる）
- ② バッド・グッド・ボーイ（小谷野）化現象。男子の場合は、単に良い子であっても、周りからは愛されない。先生の言いつけには従順に従い、けんかもせず、ルールを守るグッドボーイであっても、元気のない男子は、男としては三流であり、バッド・グッド・ボーイということになる。男子の場合は、多少悪いことをしても、元気のいい子、グッド・バッド・ボーイが人気者となる。

- ③ 女性からの矛盾した要求（女性は男子にグッドボーイであることを要求しておきながら、バッド・グッド・ボーイは、馬鹿にしがちである。）
- ④ 男性ジェンダーへの複層的な思い（グッド・バッド・ボーイに憧れながらも、自分の柄に合わないからと躊躇してしまう。男性ジェンダーへの反発と憧憬のアンビバランス。）
- ⑤ 男性同一化への困難（バッド・グッド・ボーイであるがゆえに、いじめられ、「女々しい子」と言われる。さらに女子からは気持ち悪いと言われる日々が続く。）
- ⑥ 中学の男性文化（公立中学文化への不適応。生徒の風紀は悪く、先生たちは威王的。行き過ぎたくらいに男根的な教育を受ける。）
- ⑦ 男性ジェンダーを演じられない（男子は、弱者を支配したり、虚勢をはったりすることで、男性ジェンダーを演じる傾向があるが、それらを演技することへの躊躇。）
- ⑧ 登校拒否（同一化できる男子がいないため、友人をつくることもできず、自分のからに閉じこもる。高校に行ってもすぐに不登校となるが、当時は登校拒否と言われ、周囲からの白眼視の日々が続く。）
- ⑨ 同一化の目覚め（大学受験の準備のために予備校に入る。そこは中学の頃と違い、穏やかな環境であり、他の男子に同一化したいという欲求が生まれる。）
- ⑩ 大きすぎたブランク（大学に入り、他の男子との同一化を求めるものの、それまでのブランクが大きくなり、また不登校への偏見も根深い時代だったため、問題は解決しない。孤独感。）
- ⑪ 女性の世界（専攻が英文科で女子が7割を超える。女性優位の世界。さらに葛藤が深まる。）

## 考察：

男性性の傷つき（被虐待性や脆弱性）に敏感な男性性ジェンダーの要支援ニーズを可視化する必要がある。

## 参考文献

- 小谷野敦『聖母のいない国』（青土社）  
國友万裕『BL時代の男子学』（近代映画社）  
中村正「男性性・男性問題をめぐる臨床社会学・親密な関係性研究に焦点づけて」『立命館産業社会論集』第50巻第1号、2014年